

知内町の涌元古銭

函館工業高等専門学校
埋蔵文化財研究会

平成22年11月26日（金）

第45回全道高等学校郷土研究発表大会

1 知内町涌元古銭の概要

涌元古銭(わきもとこせん)とは、1951年(1952年の可能性もあり)に、北海道南部の渡島半島に位置する知内町涌元地区(しりうちちょうわきもとちく)で道路工事の際に発見された古銭である。この古銭は漆のようなものが塗られた方形の籠に入っていたというが、現在はその容器は、残っていない。また、古銭自体もかなりの量が散逸してしまったようである。現在残っているのは997枚だが、もとはこの3倍はあったという話である。涌元古銭を保管していた工藤勇治氏が、古銭を知内町郷土資料館に寄贈したのは2006年のことである。函館工業高等専門学校埋蔵文化財研究会(以下、函館高専埋文研究会と略称する)が涌元古銭を預かり、本格的に調査を始めたのは、2008年初夏のことである。

2 涌元古銭の調査

(1)平成21年度(2009年度)の報告においては、200枚までの銭種組成をあきらかにした。今回は500枚までの銭種組成を報告する。

(2)平成21年度(2009年度)の報告では、永樂通宝7枚成分分析の結果を報告した。その結果、鏹銭と思われる文字の崩れた銭の中に銅の含有率が高いものを1枚見つけることができた。今年度は永樂通宝30枚の成分を測定し、その結果を報告する。我々は函館高専にあるエネルギー分散型蛍光X線分析器を用いて、永樂通宝30枚を測定し、それぞれの成分組成(銅、鉛、錫)を三元図(三角ダイアグラム)にまとめた(図1、表1参照)。また関東の遺跡から出土した永樂通宝の成分分析の結果と比較した(図2参照)。

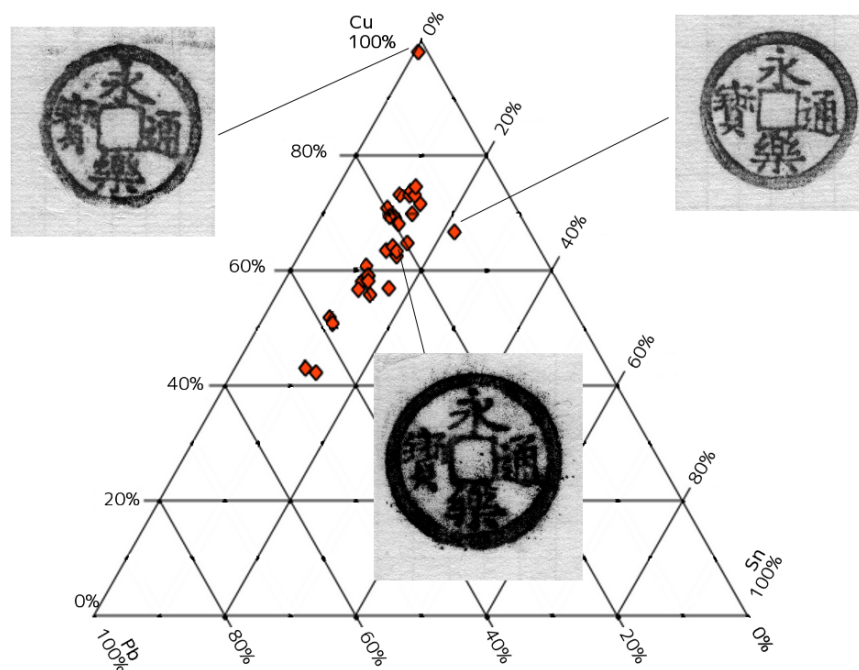


図1 涌元古銭成分分析(Cu, Pb, Sn 三元図)

資料番号	銅	鉛	錫
	Cu (重量%)	Pb (重量%)	Sn (重量%)
1	55.9	29.9	14.2
2	51.9	38.1	10.0
3	43.1	46.2	10.7
4	58.2	30.0	11.8
9	63.6	23.6	12.8
10	59.1	28.7	12.3
11	62.6	22.5	14.9
14	42.4	45.0	12.7
19	60.9	28.0	11.1
25	71.7	14.4	13.9
29	73.3	16.7	10.0
33	57.0	26.5	16.5
38	69.3	19.4	11.3
42	73.2	15.2	11.6
47	98.1	1.5	0.4

資料番号	銅	鉛	錫
	Cu (重量%)	Pb (重量%)	Sn (重量%)
48	66.8	11.6	21.6
56	71.0	19.8	9.3
57	64.9	19.8	15.4
62	59.3	28.6	12.2
69	73.9	14.7	11.4
75	50.9	38.2	10.9
77	70.0	16.5	13.6
81	68.2	19.4	12.4
82	58.3	29.0	12.7
86	64.3	22.3	13.5
89	73.2	14.5	12.4
92	74.7	13.6	11.8
98	56.8	31.3	11.9
210	69.5	20.1	10.4
215	63.5	22.1	14.5

表 1: 涌元古銭の成分分析の測定結果

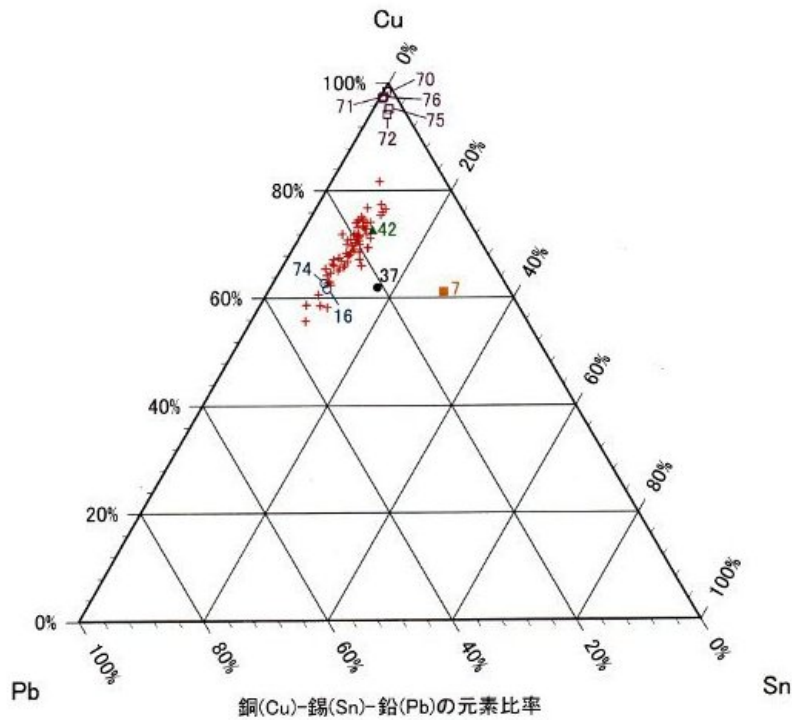


図2 手野宮脇古銭成分分析(Cu, Pb, Sn 三元図)

3 結果と考察

(1) 500枚までの銭種組成調査報告

昨年までの調査では涌元古銭200枚の分類が完了し、今年は現在までに500枚の古銭の分類が完了した(昨年までの分類にて古銭の読み間違いがあり、これも訂正した)。分類が完了した涌元古銭については後掲の表2として示した。昨年同様、涌元古銭の銭種組成のグラフとしてまとめてみたが前回のグラフと今回の500枚のグラフとでは大きな差異は見受けられなかった。やはり志海苔古銭(函館市)と涌元古銭(知内町)とでは近似的な関係であるといえる。

(2) 30枚の永樂通宝についての成分分析調査報告

我々は函館高専内にあるエネルギー分散型蛍光X線分析器を用いて、永樂通宝30枚のそれぞれの成分分析を行い三元図にまとめた。この測定結果をプロットした図1と、橋本真紀夫と植木真吾による茨城県土浦市手野宮脇遺跡で出土した古銭の成分分析の結果(図2参照)[橋本、植木2007]はほぼ一致した。手野宮脇遺の古銭は、沖縄の大世通宝を含むことから16世紀前半以降に埋められたと推測される。

また、東京都葛西城址(15世紀の中頃に築かれた)から出土した古銭の成分分析においても類似した傾向を示すことから、関東圏で流通した銭貨が脇本館(わきもとだて)および志苔館(しのりだて)に持ち込まれたと考えられる。

【引用文献】

橋本真紀夫、植木真吾 2007「永樂通宝の成分分析」『葛飾区郷土と天文の博物館紀要』第11号

古銭名	初鑄年	枚数
開元通宝	621	16
乾元重宝	758	0
乾徳元宝	919	0
漢通元宝	948	0
周通元宝	955	0
唐國通宝	959	0
宋通元宝	960	0
太平通宝	976	1
天福鎮宝	984	1
淳化元宝	990	3
至道元宝	995	7
咸平元宝	998	5
景德元宝	1004	8
祥符元宝	1008	13
祥符通宝	1008	4
天禧通宝	1017	8
天聖元宝	1023	21
明道元宝	1032	1
景祐元宝	1034	15
皇宋通宝	1038	58
至和元宝	1054	2
至和通宝	1054	3
嘉祐元宝	1056	3
嘉祐通宝	1056	8
治平元宝	1064	4
治平通宝	1064	4
熙寧元宝	1068	45
元豊通宝	1078	52
大安通宝	1085	0
元祐通宝	1086	36
紹聖元宝	1094	11
海東通宝	1097	0
元符通宝	1098	3
聖宋元宝	1101	11
大觀通宝	1107	5

古銭名	初鑄年	枚数
政和通宝	1111	10
宣和通宝	1119	0
建炎通宝	1127	0
紹興元宝	1131	0
紹興通宝	1131	0
正隆元宝	1157	1
淳熙元宝	1174	0
大定通宝	1178	0
紹熙元宝	1190	0
慶元通宝	1195	0
嘉泰通宝	1201	0
開禧通宝	1205	0
嘉定通宝	1208	2
大宋元宝	1225	0
紹定通宝	1228	0
端平元宝	1234	0
嘉熙通宝	1237	0
淳祐元宝	1241	0
皇宋元宝	1253	0
景定元宝	1260	0
咸淳元宝	1265	2
至大通宝	1310	0
紹豊通宝	1341	0
至正通宝	1350	0
天定通宝	1359	0
天元通宝	1361	0
大中通宝	1361	0
洪武通宝	1368	9
永樂通宝	1408	118
宣徳通宝	1433	2
元開通宝		0
無文銭		0
破銭		0
不明		1
計		500

表2 涌元古銭500枚の銭種組成

函館工業高等専門学校
埋蔵文化財研究会

千葉 元気(3年)